

日本学校心理士会（埼玉）会誌

藤野代表インタビュー記事

NPO 法人 親子ふれあい教育研究所

代表理事 藤野 信行先生



秋の穏やかな日、岩槻駅下車徒歩5分の所にある「NPO 法人親子ふれあい教育研究所」に伺いました。玄関先で、藤野先生は、にこやかに迎えてくださいました。親子ふれあい教育研究所は、子育て支援を目的に設立された NPO 法人です。地域からいじめや虐待を出さないをスローガンにされています。



日本大学大学院修士（心理学）、厚生労働省、聖徳大学教授、川村学園女子大学教授、星美学園短期大学教授を経て NPO 法人親子ふれあい教育研究所代表理事。ガイダンスカウンセラー、学校心理士、学校心理士埼玉支部理事、社会福祉法人理事。専門は障害者心理学。単著にボランティアのための福祉心理学（NHK 出版）、手話で歌おう（福村出版）障害者心理学（建帛社）他。

◇親子ふれあい教育研究所の活動などについて、お聞かせください。

今年の6月で設立から丸5年が経ちました。当法人は、無料の「子育て心理相談」を始めとして、様々な子育て支援事業を展開して来ました。また、これを実行するために毎年公的助成公募にチャレンジしました。しかし、年齢もあります。もうこれ以上、毎年のチャレンジはきついです。法人安定のためには、早い段階で「認定NPO法人」に移行したいのですが、現状では会員が70人弱で申請するには不足しています。

採択された助成事業は、①財団法人こども未来財団「子育て支援拠点環境改善助成事業」、②埼玉県シラコバト基金「絵本ライブ&1日巡回心理相談事業」、③生命保険協会子育て支援団体に対する活動助成「子どもと歩む母親未来ノート作成」、④さいたま市市民街づくりネットワーク推進事業「三世代交流懇話会（きぼう）開催」、⑤国際キワニスクラブ日本財団助成「虐め虐待防止啓蒙活動（絵本ライブ&心理相談）」、⑥埼玉県シラコバト基金「放課後児童クラブの児童支援員に対するストレスチェック及び心の相談」⑦埼玉県共助社会支援推進事業「児童支援員のための子ども支援ノート作成&母親ストレス診断票作成」です。



▲親子ふれあい教育研究所



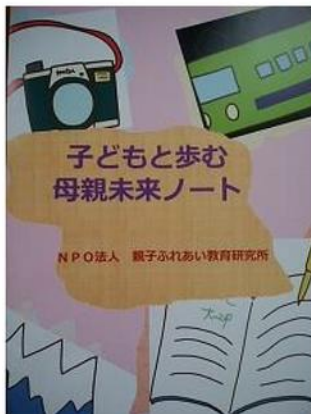
▲イベント終了後、お母さんからの相談風景

◇11月オープンの「コロッケカフェ・親子ふれあい」について、お聞きかせください。

これは、平成29年度の新規事業です。母親から要望の多かった「周囲を気にせず幼児い子どもと食事や談笑ができる場所」として立ち上げました。子どもから高齢者まで、多くの方にご利用頂けたらと思います。随時「楽しい催し」を企画します。カフェの場所は、岩槻区諏訪（諏訪神社）近く、ヨークマートから徒歩5分にあり、「NPO 親子ふれあい」の看板が出ています。オープン日時は、月曜日・火曜日の10時30分から14時30分まで（その他は不定期）です。将来は毎日開きたいと考えています。

◇やりがいを感じる時は、どんなときでしょうか。

カウンセリングが終わった後、お母さんたちに「また、来ていいですか」、「いつ、来たらいいですか」と言われた時に、やりがいを感じます。お母さんが「楽になれる。それならできるかもしれない。それで、いいじゃない」と楽になる方法を一緒に考えていくスタンスを取っています。情報提供をして、お母さんたちが一人で抱え込まないように、専門家に繋いで調整も図ります。適切な社会資源に繋がった時、よかったな～と思います。



▲『子どもと歩む母親未来ノート』



▲ニュースレター

◇大変だなと感じることは、どんなことでしょうか。

弱小の NPO 法人ですから経営が大変です。私たちのような地味な活動（無償の心理相談）や子育て支援を継続していくには我慢と忍耐、実績づくり以外に方法はありません。

「実績づくり」が大変と言えば大変でした。社会から認めてもらう活動実績とは何か。賛否はあると思いますが、私の場合は、毎年1件以上の公的事業助成採択を目標にしました。助成は全て単年度事業ですから、毎回それなりの結果を出さなければ、次には繋がりません。綱渡りの5年間であったと言えます。

◇いつも、心がけておられること・大切にされていることはどんなことでしょうか。

私の場合は、大学での教員歴は30年以上になりますが、もともとは厚生労働省出身（心理職能判定専門職）です。役人生活は11年と短いですが、今日現在まで40年以上福祉現場を離れていません。福祉でも教育でも現場を大切にする。そして、現場で働く人を大切にする。これに尽きます。

◇学校心理士として日々の活動の中で、意識されておられる点がありますか。

私の場合は「家族カウンセリング」ですが、個人を第一に考えます。個人が少しでも楽になるためには、今何ができるかを一緒に考えます。解決策を見出すよりも「無理をしない。少しでも楽になれる方法」を当事者と共に探します。その際のキーワードを「良いところ探し、ありがとう、嬉しい」に置いています。

◇学校心理士会に期待することなど、ありますか。

私は現場主義ですから多くの教師に「学校心理士」の資格を取得して頂きたい。それを願っています。初期の頃は、一定の条件を満たせば申請するだけで「臨床心理士」の資格取得が可能でした。私はこれに該当しましたが、敢えて申請しなかった。私の場合は、学校心理士の方により魅力と可能性を感じました。

※お忙しいなか、取材に応じて頂き、ありがとうございました。常に新たな事業にチャレンジされておられる藤野先生にから、多くの刺激を受けました。今後のご発展をお祈りしております。

（インタビュー・文責：亀田秀子）